

夏季休業前全体集会

R5.7.20

<校長の話>

本校は3学期制ではなく前期後期制のため終業式という形ではない。コロナも5類になったため、マスクなしの生徒も徐々に増えてきている。まだまだ、収まる気配はないが昨日のパブリックビューイングでは清峰生の一体感が見え、終了後に自然に発生した拍手はとても温かいものでした。本校の校門に入って正面のモニュメントを知っていますか？北松南高校から清峰高校に代わる最後の卒業生が「僕らは確かにここにいた」と最後の言葉を刻んでいます。当時の生徒代表8名が黒島にわたって海岸の御影石を拾い、小さな椅子に乗せている「互いに自分の石を拾い椅子に乗せることで多くの個性を着席させた。1つだけ石が乗っていないのは未来の生徒の席だ」と表現している。どうやって持ってきたのか大きさも形もさまざまな個性の違う石が椅子に座っている。清峰生もそうであってほしい。違う個性を尊重しあい、同じ場所にいるんだという存在感を持った毎日を過ごせる場所であってほしい。「僕は（私は）ここにいる…」という手ごたえを感じる夏を過ごして下さい。



さようならスティーブン先生

私は大学生の時の日本にきて「もう一度行きたい」と思いALTを希望した。この6年間で自分の2番目の出身地と言えるほど長崎に住んでいた。6年間で多くの生徒と出会い別れ、先生がたも最初からいた人は4人ほどになり、タブレットなどの科学技術も進んだ。「コロナのせいで・・・」という声も多いが「コロナのおかげで」帰国せずここにいられた。6年で何ができたかわからないけど清峰が自分がいたことでよくなってくれたならうれしい。ここでの経験から次もがんばりたい。みんなに会えてよかった。

さよならは言いたくない「またな」長野（次の勤務地は長野県の総合学科と特別支援学校だそうです）に来たら会いましょう。